

## 4 災害にともなう病害

こんにやくに発生している主な病害は表6のように6種類にも及んでいる。いずれの病害も気象災害と関係が深く、特に葉枯病、腐敗病および根腐病による被害は大きいので、その概要と対策を述べる。

表6 主な病害と発生条件

病害虫	多発時期	発生部位	発生しやすい条件	うつり方			
				空気	接触	種芋	土
葉枯病	7~9 月	小葉	多雨, 多湿, 暴風, 多肥	○	◎		○
腐敗病	7~9	茎葉, いも	〃	○	◎	○	○
根腐病	6~9	根, いも	多湿, 多肥, 未熟有機物多し			○	◎
白絹病	7~9	葉柄, いも	高温, 乾燥, 酸性土				◎
ウイルス病	栽培中	全体	低温, 乾燥, アブラムシ		○	◎	
乾腐病	栽培・貯蔵中	生子, いも	多湿, 未熟有機物多し	○		◎	◎

### (1) 葉枯病と腐敗病

本病はいずれも細菌による病害で降雨の際に水の媒体で侵入伝染するもので、長雨、台風後は急に多発が予想される。葉枯病は葉柄や芋は侵されないが他の株への伝染が激しいので早期発見し、羅病畑は3-4日ごとにボルドー液を散布する。

腐敗病は葉柄や芋まで腐らせるので羅病部は早目に切除して、葉枯病と同じく3-4日ごとに薬剤散布する。この場合の薬剤はマイシン剤も表7のように効果が高いのでボルドー液と混合、もしくは交互散布する。マイシン剤はボルドー液に比較して被害もなく治療効果も高いが予防期間がやや短い。台風直後または生育後期の日照不足時の散布はボルドー液より効果が高いことが多い。

表7 葉枯病、腐敗病に対する薬剤比較試験(広島農試・油木農改)

薬剤名	濃度	生育中の罹病率%				親芋の収量比%		
		46年		47年		46年	47年	48年
		8月25日	7月14日	8月30日	9月26日			
ボルドー	5:5式	0	38	13	32	100	100	100
オキシンドー	600倍	1	68	37	100	98	81	-
ドーマイシン	500倍	-	-	0	5	-	116	134
アグリマイシン	1,000倍	2	63	3	6	111	122	113
無処理	-	52	100	100	100	90	58	117

注: 7月下旬から10日ごとに散布, 48年は病害の発生は無かった。

### (2) 根腐病

発芽から展葉期にかけて根の一部が水浸状になり、病勢が進むと根全体が黒褐色に腐敗してくる。このような場合地上部の葉は生気を失ない、しなびた病状となって次第に黄化倒伏する。倒伏しなくても腐敗病その他の病害を誘発し種芋まで腐敗することが多く、被害は以外に大きい。原因はピシウム菌によるもので平坦地などの排水不良地、多肥栽培、未熟な有機物の多用の場合に発生しやすい。(表8)

防除法は基本的には排水をよくし、有機物の施用、深耕などにより地力を高め健全な生育をさせることが必要である。農薬による防除は植付時、又は手入時にパンソイル粉剤を10a当たり10-20kg散布し土壌とよく混和する。(被害が大きく予想されるところは30kg必要)

表8 根腐病防除試験

ア 有機物の施用と根腐病(茨城農試)

項目	1年目		2年目	
	病株率	被害度	病株率	被害度
イナワラ	20.9%	8.6	57.4%	26.9
未熟堆肥	17.6	8.6	64.1	39.6
中熟堆肥	18.7	9.0	50.8	25.6
完熟堆肥	5.6	2.5	22.1	9.5
無施用	14.0	8.1	9.4	3.7

(注)イナワラ 300kg, 堆肥 1トン, 供試種芋 2年生

イ 根腐病に対するパンソイル粉剤の効果(昭50 油木農改)

年生別	処理時期	倒伏期	収量比%	罹病率%
一 年 生	種付時2K./a	10月15日	132	0
	手入時2K./a	10月15日	123	6.1
	無施用	10月6日	100	55.5
二 年 生	種付時2K./a	10月18日	124	1.6
	手入時2K./a	10月15日	118	8.7
	無施用	10月6日	100	60.9